

稲成起風



【稲城市議会議員 鈴木誠 活動報告】

「公」のために365日粉骨砕身！働き盛りの全てを懸けて活動した4年間。小さい紙面、さらには文字だけですが掲載出来る限りの活動・質問内容を総括してご報告いたします。

素人が飛び込んだ政治の世界。目標は『世代循環の街・稲城』

世代循環型の街・稲城 実現に向け全力で活動

昨年、地方創生会議より少子高齢社会が消滅社会になると発表されました。

6年前、住宅情報誌の制作職の中でこの傾向を知り、その後、第一子が生まれ「このままでは次世代に誇りある街を、希望ある未来を残せない」と一念発起して市議会議員に立候補。



市議4年間、子育て・高齢福祉・防災・防犯・救急・歴史文化農業商業交通：数えきれないほどの政策議論をして参りましたが、それは全て「世代循環型の街」を目指してのことです。

この街で生まれ育つた子が親となりまた子を育む、なんてこと無いけど難しい循環モデルを構築し、他自治体にも展開することは、このご時世において稀有な

「人口増加自治体」である稲城市だからこそやれる、むしろ近郊モデルになるべきであると確信しております。

「人口増加自治体」である稲城市だからこそやれる、むしろ近郊モデルになるべきであると確信しております。



「全会一致」の弊害...

そんな素人が1期目で気付いた、変えねば変えられないことのひとつが議会の改革を担う議会運営委員会が実質的に「全会一致でない」と何も決められないシステムになっている「点です」。

議員削減や議会改革をいくら唱えても1会派の反対で頓挫してしまいます。

選挙の際には、多くの候補者が声高らかに格好良いことを述べる訳(私も?)

ですが、何が最大多数の最善であるのか、どうしたら周囲を納得させられるかを考えないと独り善がりなものになり、意味はあれども、結果には繋がりません。

議員定数の件と併せて、議会の納得を得てこの点を改善・改革して参ります。

議員定数削減は選挙目録に載っています。

前に進む提案型の政治を！

元々企業勤めである私から見、議会には「？」と思う部分がたくさんありました。チェック機能＝批判が仕事と思っっているような議員も居られます。生産性を高め、行政のチェックと同時に代替・改善案を必ず提案、それが新たな議論と結果に繋がる「正スパイラル」型の議会実現に取り組みました。「出る杭は打たれ」ておりますが、全身全霊を懸けて継続します！

鈴木誠の一般質問(総集編)



平成23年6月5日
平成27年3月議会

一般質問は行政チェック機能に並び、現況改善や政策を提案できる貴重な機会。批判だけでなく、出来もしない政策・理想論を述べるだけでなく、現実的な提案を示し、着実に前へ進む質問を心がけました。

また当然の事ですが16回の質問全てに登壇、防災人としての責務を果たすべく今期議員で唯一、「防災と防犯」について毎回必ず質疑・提案をして参りました。

世代循環実現に向けた質問の一部を報告させていただきます。

鈴木が考える「世代循環型の街・稲城」



先日生まれたばかりの第三子。次の世代に良い街を！政治の至らぬ命題。

世代循環とは、上述の通り「子や孫がまたこの街を人生の舞台に選んでくれること」です。

そのためには一点突破型の「〇×の街」ではなく、「〇×の街」ではなく、「〇×の街」ではなく、子育て・教育の環境、誰もが安心安全に暮らせるインフラ、そして骨を埋

める価値のある伝統文化溢れる街であること等、バランス良く維持・発展させる必要があります。

私たち自身が稲城の街を理解し、愛し、そして子供たちにも自然と愛郷心が育まれ、大きく育つ時「お父さんお母さん、私、稲城で暮らしたい！」と言ってもらえたら初めて成功だと言えます。

50年100年先を見据えて一緒に議論しませんか？

【防災・防犯関連】

- ◆家具転倒防止器具・木造住宅耐震診断・稲城市商工会住宅改修工事補助事業の拡充を提案↓実現。擁壁や集合住宅は引き続き要望。
- ◆空き家・枯れ草火災対策↓火災予防条例改正と勧告が出せるよう重ねて要望。
- ◆安否確認、病院搬送、必要備品振り分け等に重要な避難所名簿を一元管理できるように統一すべきと指摘、関係機関と調整を始める。
- ◆防災無線が聞こえない問題に、防災ラジオ・専用テレホンサービスを検討。混雑による騒音に因ってはデジタル化で減少を図った。
- ◆防火水槽・消火栓等を、高齢者施設などの直近に配置すべきと提案、要望継続。
- ◆市南部地域への消防出張所(分署)早期建設を提案し、住民利便性と理解の最大値を実現するよう提案。
- ◆東京消防庁へ加入せよという意見がある中、単独消防体制が稲城市民にとって有利か不利なのかを検証。防災面では市と一体となり活動が行える、消防職員の内在住化が図れること。救急面では1隊当たりの出場件数が、東京消防庁、隣接の川崎市消防局に比較して半分近い。きめ細やかな対応が可能であることが判明。将来的な消防署建替えや装備一新等の大きな節目が無い限りは現状の単独消防が市民に有利と結論付けた。

◆都県境地区の治安維持増強で、管轄外執行権を検証。都県を越境した逮捕事例は過去にもあり、矢野口・坂浜・平尾のような都県境地区における草の根的な治安維持体制（特に近隣市との繋がり）構築を訴えた。



◆小児・乳幼児医療において、休日・夜間に緊急診察した場合の預り金を市内在住の場合には撤廃するよう要望、市立病院にて検討中。他に、子ども医療費助成の所得制限や負担金、対象年齢上限等は稲城市に定住を決める重要な点であるため、一層の取り組みを要望。

◆保育園・幼稚園に対する窓口一元化、私立幼稚園等園児保護者負担軽減補助金及び就園奨励費補助金の増額要望を併せて要望、実現。

◆いじめや犯罪に巻き込まれない児童見守りの仕組み作り方法を提案、やり方については地教懇やPTAにて話し合っていくことに。

◆市立小中学校の防災拠点化に向けて、備蓄の充実、万が一の際に解錠できる方策を要望、全て実現。



◆「責任ある稲城っ子」を教育すべきとして、選挙・政治意識醸成、少年非行・犯罪の防止啓発、公立

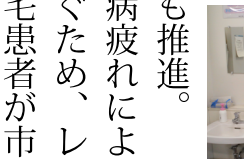
中学校への進学時にネットもなる学力（偏差値）向上施策と併せて提案。また、多様な部活動環境の整備を促進し新規部活の設立承認を得た。

◆民生委員も被災者に成り得ることから、災害時要援護者支援ネットワークを自主防災組織などに装着すべきと指摘。各自自治会の協力を得ながら防災名簿の委託が進んだ。

◆稲城市立病院への公共交通網（市バス・iバス）およびハンディキャブ送迎強化を提案。白タク化しないように注意しながら、交通弱者に寄り添った方法を取るよう要望。

◆高齢者等の見守り体制、及び独居者の外出習慣構築に向け提案し、地域介護予防活動支援事業を推進。未整備の長峰・若葉台地区も併せて提案。

◆整骨院・接骨院の受診内容照会制度の見直しを要望。



◆医療費増加を防ぐため予防医療・健康増進施策を提案、人間ドックと市立病院・健康プラザとの連携強化も推進。

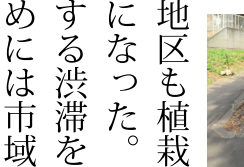
◆平尾・坂浜地域において、生垣造成補助対象地区外になる場所があると指摘、地区計画の改正に漕ぎ着けた。

◆市内の組合型土地区画整理について市内北側の平野部と南山・上平尾・小田良など南側の丘陵部は補助率の不平等を指摘、周辺対応を要望した。

◆節電のためにも、街灯をLED街路灯&自動点滅式に切り替えるべきと提案、市内の節電計画を見直すことに。

◆市内公園において、深夜の花火やバーベキューのごみ処理マナー問題があることを受け、利用ルール見直しを提案。公園毎の独自ルールを設定、悪質なら「禁止」も検討。

◆街路樹・歩道について対処療法では無く、抜本的な計画対応が必要であると提唱。区画整理に合わせ既存地区も植栽計画の見直し対象になった。



◆市内各所で発生する渋滞を根本解決させるためには市域を超えた広域道路網整備が必要と提唱。南多摩尾根幹線道路は四車線化決定。鶴川街道

や各都市計画道路についてはさらに都に働きかけること、川崎・町田・多摩市の各自治体に政治的パイプを駆使して取り組むと市長自身が決意！ ※急傾斜住宅地域、団地への対応は次号詳細を掲載予定。

◆iバスに関しては先ず道路を整備して民間バス事業者に、参入してもらうことで路線充実を図ること、路線については市の中心バス集積地を決めてそこから簡便に乗り継ぎ循環出来る花卉型（ハブ&スポークとも）の採用を提案。

「農工商業・観光事業」に関しては企業誘致条例設置、起業・商店活性化施策、消防団サポート事業、フィルムコミッション、お土産事業等の各施策を提案

「芸術文化・スポーツ」では芸術文化団体連合会や第九演奏会等の更なる振興、iプラザ利用方法改善、学校体育館開放の意義見直し、東京五輪プレ大会の誘致、資料館・古民家の活用等を提案

「行財政改革」においては健全財政の維持を念頭に、公共工事入札の適正化、市民協働（募集）方法の改善、市HP刷新やSNS活用、川崎市との連携強化、平尾・若葉台出張所の機能充実、公共予約システム、市の情報管理、自治会・消防団への加入率向上、後発での近隣迷惑施設発生時の市の対応について定義

世代循環の街実現に向けては、財源に裏打ちされた公平公正な分配とその財を最大限に活かす+αのアイデアが必要。4年間の質疑は余りにも膨大なため、本紙面には収まりません。稲成起風バックナンバーかHPをご覧ください！

《1期4年間の活動日数報告》

公務（本会議、委員会、公的視察・研修等）、議員活動（市民相談、会派視察、式典出席、資料作成、打ち合わせ等）、地域活動（自治会、消防団、青年会議所、神社奉賛会、領土・領海委員会、第九実行委員会他）、平成23年5月～平成27年3月まで47ヶ月1431日中1302日を活動日とした（平均休日2.7日/月）。休日は体育大会出場（バドミントン）、登山、研修旅行、冠婚葬祭、家族団らん等。

公人としての最低限の責務である「活動報告」1年365日、一日も欠かさず公開しています。

検索 <http://www.inagi.info>

稲成会（鈴木誠後援会）では会員を随時募集しております。年会費無料。鈴木誠を応援して下さる方、「稲成起風」を毎月読みたい方、御連絡お待ちしております。

メール問い合わせ先: inari-kai@inagi.info

市民の代弁者たる議員は公私問わず、全てを見せて信頼を得るべき。

市内幼稚園～法政大経済学部卒業
（株）リクルート（現RCO）正社員
2011年、稲城市議会議員初当選
昭和57年5月生まれ、32歳。
妻・子（3人）、親世帯、愛犬1匹との大家族暮らし実践中。



4年前、「一切隠し事をしない」（まるで子供のようなですが）という約束を当選報告会にていたしました。政策や考え方、日々の活動は勿論、半生・性格・行動等々を知らずに代弁者の選出は出来ません。世界混迷、国難の時世。噂や他者の薦め、組織等の方針に拠らず「この人を選ぼう」と主体的判断で選挙に赴くようお願いいたします。

詳細はコチラ↓ www.inagi.info/makoto

【現時点での役職・資格等】

- ・稲城市市議会議員（現職最年少）
- ・稲城市消防団第六分団 団員
- ・稲城青年会議所 副理事長
- ・稲城市バドミントン連盟 男子代表選手
- ・稲城市学校体育館個人開放管理指導員
- ・稲城中生者のための第九演奏会実行委員
- ・杉山神社奉賛会 理事
- ・平尾地区自治会協議会（4自治協）役員
- ・宅分自治会 事務局長 同自主防災組織 本部委員
- ・日本青年会議所 領土・領海委員会委員
- ・日本防災士機構 認定防災士
- ・日本赤十字社 救急法救急員
- ・関東総合通信局 陸上特殊無線技士
- ・東京都三市収益事業組合議会議員
- ・林英臣政経塾 塾士補（第九期生）
- ・「いなぎ歴史探検」制作管理者 他多数

